

2020年合格認定医紹介

第8回認定医試験が行われ、小澤真希子先生、フリッツ吉川綾先生が新たに認定医となりました。紙面にておひとりづつご紹介させていただきたいと思います。今回はフリッツ吉川綾先生をご紹介させていただきます。

研究会の皆様、こんにちは。「きっかけ」と申します。今後も自己研鑽に励み、皆様にも有益な情報をご提供できるように努めます。どうぞよろしくお願い致します。

私の動物行動学(行動学)との出会いは、酪農学園大学獣医第二外科教室でのことです。ゆるーく外科に関わり、南佳子先生の可愛いハスキー犬2頭をモフモフしながら行動学が勉強できてしまうというお得さから、この研究室を選びました。未熟な学生でしたが、診療、AAA ボランティア、しつけ教室スタッフを通じて活きた行動学に接し、「動物とその周りの人をHAPPYにするすごい学問を世の中に広めねばー!」と奮起したのを覚えています。

それから約25年、行動学の認知が広がり、研究会の先生方のご尽力に敬服致しております。一方私は、佳子先生のもとで博士課程を修了後、米国タフツ大学行動診療科で研修を受けました。その後も、常に心の中心に行動学があり、できる勉強や経験を重ねてきましたが、国を跨いで移動したり、家族のジェネラルマネージャー業に追われた

りで、残念ながらまだ獣医師として納得のいく仕事も貢献もできていません。3年前に帰国し、なないろ動物病院(東京都文京区)で一般診療と行動診療を、ACプラザ荻谷動物病院市川総合病院(千葉県市川市)とパル動物病院(静岡県裾野市)では行動診療を担当しています。これからは日本で腰を据えて(永住希望!)、微力ながら学問と研究会の発展を加速する仕事がしたいです。

これまで多くの皆様にお世話になりました。改めて感謝申し上げます。動物の命の質は、その長さと同じくらい重要だと考えています。動物とその周りの人々をHAPPYできる方法を行動学を頼りに探しながら、日々過ごして参ります。



JBVPに参加して

日本臨床獣医学フォーラム第22回年次大会での白井先生の「おうち時間が長いから、今、知っておきたい犬と猫の行動に対する影響と変化」についての講義を視聴いたしました。コロナ禍で人の在宅時間が増えたことによる犬猫の行動学的

影響と、心身共に健康に生活するために臨床獣医師ができる予防と対応策について、具体的でわかりやすくとても勉強になるお話でした。内容の一部を皆様にご報告いたします。

行動学的な影響を受けるハイリスク要因として、まず環境・状況の変化に敏感である個体であること、家族への依存度が高い/低い、器質的・行動学的な疾患の有無、バッググラウンドストレスが大きいことがあげられていました。その中でも家族への依存度が高い犬は家族の在宅時間が増えたことによって嬉しく感じるが、この先留守番が増えた時の落差が心配であり、またどちらかという家族への依存が低い犬は家族という時間が長いことのストレスの心配があるというお話がありました。

これはコロナ禍では今後も十分に考えられる問題であり、予防するにあたり個体の気質を考えていかなければならないと改めて思いました。また犬は人への共感性が高く、身近な家族のストレスが多いことによる影響を直接に受けるというお話もありました。人のメンタルヘルスは獣医師の範疇ではありませんが、犬猫が心身ともに健康に生活するためには犬猫のストレスを減らすことが大切であり、器質的な疾患の鑑別と治療だけでなく、

アニマルウェルフェアに則った飼育指導と、社会化、正の強化によるトレーニング指導や問題行動に対する行動治療を勧めること、またハイリスクな個体には注意喚起と予防についてご家族にお伝えすることが臨床獣医師として大切であると再認識しました。

今年のフォーラムは9月19日から10月11日までオンラインでの開催となりました。自宅で時間を見つけて視聴できるのはオンラインでのメリットでしたが、会場で先生方にお会いできないことはさびしくもありました。できるだけ早く平常に戻ることを願っています。

(野口 ゆづる)



オンライン ベーシックセミナー

今年9月から臨床行動学を学ぶ機会として、オンラインのベーシックセミナー（無料）が開設されました。多くの先生にご視聴いただきありがとうございます。参加された先生にご感想をいただきました！

コロナ禍の中、すべてのセミナーや学会がオンラインになり、それが一般的になりつつある世の中、私自身オンラインセミナーにもだいたい慣れてきました。今回ベーシックセミナーがオンラインで9月からシリーズで配信されるとあり、大変うれしかったです。しかも無料で受講できるとあってとても気軽に参加しやすく第1回目からとても楽しみにしておりました。早速9月から教科書を片手に毎月ベーシックセミナーを受講させていただいております。行動研究会の皆様も積極にご視聴されているかと思えます！すでに受講されている皆様はご存じかも知れませんが、第1回目、2回目は白井先生でそれぞれ問題行動とコンサルテーション、問題行動の治療方法（行動修正法）という内容でした。第1回目では行動治療の進め方など行動診療を行うにあたって、基礎的な考え方や飼い主様

とのコミュニケーションの取り方、問題行動の鑑別診断などわかりやすく説明していただきました。行動診療のみならず、一般診療でも飼い主様とのコミュニケーションはとても大切だと日々実感しておりますので、あらためて復習することが出来ました。第2回目では行動修正法について学習理論などにも触れながら、実際にありがちな例えなども豊富に説明してくださいました。私自身、学習理論については教科書として指定されている動物行動学や臨床行動学を読んで用語を勉強しておりますが、用語だけの説明だとどうしても読んでいくうちにさらに？？？となってしまうことも多く（私だけでしょうか・・・笑）ちょっとだけ苦手意識がありましたが、今回のセミナーではイメージや図でもわかりやすい説明で学習理論を復習するとてもいい機会になりました。

私は横浜の病院で行動診療や一般診療をやりつつ、パピークラスも勤務先で開催しているのですが、パピークラスの際にもこの学習理論はとても大事であると感じております。パピークラスに参加される方は、はじめてワンちゃんを飼う飼い主様だけでなく、これまでワンちゃんを飼ってきた飼い主様もおり、しつけに関して学習理論を少しだけお話しする機会がありますが、たとえ話などを使ってなるべくわかりやすい説明を心がけております。そうすると、ほとんどの飼い主様になるほどー！と言って感心されます。ワンちゃんを飼っていても学習理論まで知っている飼い主様はほとんどがいない

のが現状だと思います。今回のセミナーでは行動診療の時はもちろん、パピークラスや普段の診察から使えるコミュニケーション方法や学習理論をわかりやすく説明してくださり、大変参考になりました。

第3回目は、奥田先生による問題行動の治療方法（薬物療法）などのお話ということなので今回のオンラインセミナーも楽しみにしております！！まだ受講されていない先生もぜひ参加してみてください！

（互 梨奈）

ベーシックセミナーの配信も、3回目を迎えることができました。会員の皆様におかれましては、ご視聴いただき誠にありがとうございます。今後も1か月単位で、ベーシックセミナーの配信を継続していく予定です。1か月ごとに内容が変わりますので、お見逃しなく視聴してくださいね♪ベーシックな内容ですので、行動学の学習を開始される方、もう一度基礎から学びなおしたい方、基礎は知っているが復習したい方・・・「無料」で活用できるチャンスを、皆さまの学習にお役立ていただければ幸いです。詳細は、メーリングリストやHPをチェックしてください！

（白井 春佳）



オンライン症例検討会について

オンライン症例検討会の開催が決定いたしました！2021年1月22日（金）21時～23時となります。今回は、「中級～上級コース」としてレベルを設定して行ないます。講師には、入交眞巳先生をお迎えし、「分離不安 行動変容（behavior modification）をどうかんがえるか～分離不安の治療はどうしていますか？～」というテーマで開催いたします。申し込み開始は、年明けの1月2日からを予定しております。メーリングリストなどで詳細をお送りいたしますので、ご確認ください。聴講だけという参加も可能ですので、初級なのだけど・・・という先生方も、ドシドシお申込みください！

（白井 春佳）

コロナ禍での行動診療 ～メーリングリストより～

みなさん、こんにちは！会員特典の一つに「メーリングリストを利用して情報交換をする」というのがあります。広報委員会としては特にコロナ禍の現在、メーリングリストの活性化を願っているところです。先に委員長の奥田先生から、「コロナ禍における行動診療の在り方」を問うリストが発せられたのはご存知かと思います。残念

ながらまだまだ続きそうなコロナ禍を、動物たちと飼い主様をまもりつつ、自分たちも安全に乗り切るためのヒントを集めるために提案を行いました。みなさんからいただいたご意見をもとにコロナ禍における行動診療を考えてみようということで本文をお届けすることにしました。

コロナの流行によって在宅時間が増加した、新しく動物を飼い始めたなどの理由により動物との接触が増えたからでしょうか、ご意見によれば行動診療の件数は増えているところが多いようでした。基本的に行動診療を含めて獣医療における初診は、獣医師法とのからみで、直接診療、すなわち対面診療が求められます。行動診療でも、身体疾患との鑑別のための身体検査をはじめとして各種検査が必須ですし、症例によっては処方もしますので直接診療が要されるところではあります。

では、獣医師法に引っかかることなく、直接診療をしないで行動診療をするにはどのようにしたらよいのでしょうか？まずは、その動物病院がいわゆる「かかりつけ病院」の場合、偶然にも問題行動が生じる直前または直後に完全な身体検査をしており各種疾病との鑑別診断が不要で、疾患が関与しない行動上の問題と診断できるなら、初めからオンラインサービス、メールや電話などを利用した（間接方式による）行動診療が可能でしょう。



次に、行動診療を専門にしていらっしゃる獣医師であれば、かかりつけの動物病院に身体疾患との鑑別のための検査項目を指示、結果をいただいたあとで、間接方式での行動診療を開始、かかりつけ動物病院に行動上の問題の診断、治療のアドバイスを返し、併せて必要に応じ処方を依頼するのであれば、問題無しでしょう。

初診については直接方式による行動診療がより優れているという点についてはご意見をいただいた皆さんの共通理解のようでしたが、二回目以降の診療については、遠隔にお住いの飼い主様の動物の治療、外出禁止などの非常事態宣言が出された時はもちろん、コロナ禍にあってはこれらの間接的な診療方式は積極的に活用すべき手段といえますね。

さて、オンラインパピークラスにも少し触れられました。こちらは法律上の問題はありません。無料という太っ腹な先生もいらっしゃるようです。私個人としては正しい、新しい情報はその入手のために要した時間とお金を考えて有料で行っていただきたいですが（笑）。オンラインパピークラスも社会化の促進という意味での他の飼い主様や子犬たち、訓練された成犬との接触、馴化の促進という意味での条件設定下での新奇刺激や状況への暴露経験などができないという欠点がありますが、飼い主様に日常必要とされるコマンドを指導する、問題行動を含めた獣医学的予防知識など多くの情報をお伝えすることは可能ですから、積極的な活用が望まれるところかと考えます。

ご参考までに・・・メーリスでは以下のような具体事項も挙げられていました。

- マスク、ゴーグル、フェイスシールドなどの着用
- コンサル時の窓の解放による換気
- 対面を避けるための椅子配置
- 次亜塩素酸、アルコールによる机・椅子などの消毒

見えそうな、または実際に使っている
オンライン診療のためのツール

：Zoom、Skype、みるペット、Google Duo、ユーチューブ

我が家のコイケルはマスクがお気に入り！？



私たち獣医師の仕事は忙しい。一言で動物の診療と言っても内容は多岐にわたる。病気は身体だけでなく心にも生じることもあり、動物種も様々。飼い主の気持ちに寄り添い、スタッフ教育や病院経営をこなしつつ、さらなるスキルアップのために勉強に励む必要がある。家に帰れば家事や育児、介護が待っていることもある。この状況は自らが望んだことでもあり、日々を頑張ることで収入だけでなく「やりがい」「生きがい」も得ることができる。頑張ることは格好よく、頑張った自分が大好きだ。けれど…いつも少し疲れている。いつもいくつかの締め切りに追われていて、それらは終わりがなく繰り返されている。気づいていないかもしれないが、私も含め獣医師の多くがこんな状況ではないだろうか。皆さんはどんなふうに日々を過ごし、どんなふうに気分転換をしていますか？

私は最近何を思ったか、フィットネスジム通いとWEB英会話を始めました。フィットネスは少しダイエットしたかったのと、登山が趣味なので体力アップのため。英会話は論文をスムーズに読みたかったのと、外国語に対するちょっとした憧れ。正しい呼吸をしながら筋肉を動かし汗をかく1時間のトレーニングは、息を詰めるようにして神経と頭と指先を使う日々の診療とはまるで違う感覚。余計な体重が落ち、

重い負荷に耐えられるようになる。体が鍛えられていく感覚は「なんも言えねえ」とか「筋肉は裏切らない」とかいうやつと同じで、真の自己肯定感を感じることが出来る。

英会話では講師が会話を促してくれるので、脳内の英単語を捻り出しながら辿々しくもなんとか会話を成立させることができる。宿題をする時間がなくても1時間PCを開けば何かしらは進むので、心地よい緊張感を感じながらもいつもあっという間に時間が過ぎる。職業柄人の話を聞く方が多い自分にとって、傾聴される側になることは新鮮で楽しい。

各地で災害が頻発し、コロナ禍の現在、私たちを取り巻く状況は目まぐるしく変化している。そんな中で心と身体を健康に保ちつつハードな毎日を無事に過ごすためには、時には思いつくままに行動し、いつもと違う自分に出会ってみるのも悪くないかもしれません。1日の終わりにベッドに潜り込み、今日も満足したと思える日があることは、明日への活力になると思います。念のため申し上げますが、まだ英語は流暢には話せませんしスレンダーなマッチョでもありません(笑)。どこかでお会いすることがあったら、どうぞ優しい眼差しで見てくださいように！

(寺島 美穂)

素敵な投稿ありがとうございました！引き続き「会員の窓」では会員の皆様からのご投稿をお待ちしておりますどんな内容でもOKです。お気軽にご投稿ください♪また、こんなコラムが読んでみたい、などのリクエストもお待ちしております。
投稿先メールアドレス：nobuu0213@gmail.com
(広報委員会 北村)



事務局からのお知らせ

今年は新型コロナウイルスの影響で自宅待機が多く、学会や勉強会開催の予定を決められずに苦慮した一年でした。講義、セミナー、認定試験とWebでの対応には不慣れなこともあり手探り状態、時間も費やしました。GOTOトラベルも使えないうちに2020年が暮れ、2021年がやってきます。より良い1年に期待したいと思っています。本研究会は設立当初よりWeb症例検討会を取り入れ、また、新しい試みを始めたことで入会者が増加傾向にあり300名を越えました。残念ながら今年度はプラクティショナーの試験は中止となってしまいましたが前向きに進んでいます。来年度は新幹事体制となりますので益々強力に若い力と歩んでいくこととなります。どうぞご期待下さい。

ニューライフスタイルの年末、新年を楽しんで過ごしましょう。

(内田 恵子)